



アンサンブル



2021 No.8

稲作の大変さ



今年も5年生は稲作の体験学習に取り組んでいます。

5月31日に田植えを行い、植えた苗が見事に実り、10月1日に稲刈り、その後、天日干しをし、10月12日に脱穀を行いました。もちろんすべて手作業です。

今年も鈴木さんや平野さんご家族にお世話をしていただいています。今年は、夏休み中の天候不順で日照時間が足りなかったために、うまく実るかどうかが心配されましたが、昨年同様に豊作だとおっしゃっていました。

田植えから脱穀まで5か月近くかかっていますが、この間、そして田植えの前にもいろいろな作業があります。土作り、苗作り、水の管理、草取りなど。(5年生の子どもたちは社会科で学習済みです) また、今年は鳥よけまでやっていただきました。

稲を育て、ご飯として食べられるまでには、こんなにも時間と手間と労力が必要なのだと、改めて気付かされました。ぜひこの体験学習を通して、5年生の子どもたちにも稲作の大変さを感じ取ってもらい、食べ物を大切にする心や農家の方々への感謝の気持ちをもってほしいと思います。

この後、粃すり、そして精米をして、いよいよ、三宅祭で餅つきです。



<脱穀で使った農具>



「千歯扱き(せんばこき)」です。江戸時代に発明された画期的な農具です。

「とうみ」です。風力で実った粃と皮だけの粃、そしてごみを分ける農具です。



「足踏脱穀機(あしぶみだっこくき)」です。大正時代に普及しました。千歯扱き以上に画期的な発明だったようです。

上の農具は「三宅記念館」に保管されているものを使用しました。

まだ使える状態で保管されていることは驚きです。地域の伝統文化を大切にしていきたいものです。